

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断D.I.**は、「良い」超転化。
—— 製造業は「悪い」超幅が縮小。非製造業は「良い」超幅が拡大した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	食料品、電気機械、化学	需要増加 供給制約の緩和
	悪化	木材・木製品、繊維、 窯業・土石製品	物価高騰 暖冬の影響 中国経済の回復の遅れ
非製造業	改善	鉱業・採石業・砂利採取業、 情報通信、飲食・宿泊サービス、 建設、不動産、運輸・郵便、物品 賃貸	価格転嫁の進捗 震災の影響の剥落 需要増加
	悪化	卸売、対事業所サービス	物価高騰 人手不足

- **先行き**については、「良い」超幅が縮小する見通しである。
—— 製造業は今回調査並みの「悪い」超幅の見通し。非製造業は「良い」超幅が縮小する見通し。

(事業計画)

- 2024年度は、**売上高**が前年を上回る計画である。一方、**経常利益**は前年を下回る計画である。
—— 経常利益は、製造業では、コストアップなどから減益計画となっている。一方、非製造業では、価格転嫁の進捗などから増益計画となっている。
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業、非製造業ともに価格転嫁の進捗などから、それぞれ上方修正となった。

- 2024年度の設備投資は、前年を上回る計画である。
 - 製造業は、能増投資や先送りしていた投資計画の実施などから、非製造業は営業拠点の拡大や更新投資などから、前年を上回る計画である。
 - 前回調査対比で見ると、製造業、非製造業ともに能増・更新投資などから上方修正となった。
- なお、2023年度の売上高は前年を上回り、経常利益、設備投資は前年を上回った。

(その他の判断項目)

- 販売価格判断D. I.、仕入価格判断D. I.は、「上昇」超幅が拡大した。
- 雇用人員判断D. I.は、「不足」超幅が縮小した。
- 資金繰り判断D. I.は、「楽である」超幅が拡大した。貸出態度判断D. I.は、「緩い」超幅が拡大した。借入金利水準判断D. I.は、「上昇」超幅が拡大した。

以 上